TOPICS 5

ペガサスグループ **チッパーフォーラム**

第1回「シニア版 |チッパーフォーラムを開催。

チッパーフォーラムとは、社会医療研究所の岡田玲一郎先生の呼びかけにより、さまざまな病院や法人の職員が集まって開く合同研修会のこと。今回は、ペガサスグループがホスト役となり、初めての「シニア版」チッパーフォーラムが開かれました。

平成29年2月18日の当日には、さまざまな法人から、シニア管理職37名が参加。岡田先生の講演やペガサスの

施設見学とともに、「シニア管理職として何をすべきか 〜地域包括ケアシステム構築に向けて〜」というテーマで ワークショップを行いました。シニア管理職が一堂に集ま るという滅多にない機会に参加者は、チッパー(活発な、



TOPICS

ペガサスグループ 岡田玲一郎先生の講演会

「ひとりで、できない。みんなでやる?」

講師 岡田玲一郎氏 い参加者が熱心に耳を傾けました。



2月16日、岡田玲一郎先生の講演会が馬場記念病院にて開かれました。今後、介護が必要な高齢者が増えると、家族だけでなく、地域での互助がいかに重要かのお話に、ペガサスの職員や地域の医療・介護従事者など、100名近

7

ペガサス健康保険組合 **職員向けセミナー**

職員の健康管理に努めています。

ペガサス健康保険組合では、1月20日と31日の2回、職員向けセミナー「乳がんのお話」を開催しました。馬場記念病院の生理検査室の坂本明子臨床検査技師が講師となり、乳がんの基礎的な知識から定期健診の重要性、そして、簡単な自己検診方法などを説明しました。ペガサスでは、こうした取り組みを通じて、職員の健康管理を徹底。患者さまへのより良い医療サービス提供へと繋げていきます。

ペガサス地域包括 ケアセンター



「なんでも相談」窓口あります

場所: 馬場記念病院 総合案内横時間: 平日9時30分~12時まで健康のことから在宅介護まで。 多様なニーズに対応する「なんでも相談」窓口を設置しています。 まずはお気軽にご相談ください。 お問い合わせ/TEL:072-265-5558 (担当 平岩)

ペガサスグループ 株式会社ユニコ

取り扱う紙おむつは148種類。 大幅な値下げも実施中です。 お問い合わせ/TEL:0120-062-505





私たちと一緒に働きましょう。

していま

汀護臧貝募集中! 止職貝採用

いつでもご連絡いただければ、ペガサスグループの施設見学などへご案内します。どうぞお気軽にお問い合わせください。

障がい者の方、一緒に働きませんか

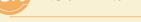
※障がい者手帳をお持ちの方。正職員への雇用変更もあり 業務は、A)書類の印刷、製本 B)洗濯 C)清掃 D)データ入力 E)資料作成等。

お問い合わせ/馬場記念病院 人事課 TEL: 072-265-9089

f

社会医療法人ペガサス公式 Facebook ページ https://www.facebook.com/s.m.c.pegasus

5月 ペガサスセミナー



CT検査とMRI検査 どこが違うの?

講師: 馬場記念病院 診療放射線技師 向井一也 日時: 5月30日(火)午後2時~3日

日時: 5月30日(火)午後2時~3時場所: 馬場記念病院1階ロビー

5月 ペルセウス介護 支援セミナー

病院と介護施設の違い ~看護職員の役割~

講師:看護師 森永由美 日時:5月26日(金)午後2時30分~ 場所:介護療養型老人保健施設

ペルセウス3階食堂

5月 ペガサスセミナー 和泉

今日から実践! 5 運動のコツ!!

講師: 馬場満記念クリニック 理学療法士 浅野賀生

日時: 5月25日(木)午後2時~3時 場所: 介護療養型老人保健施設エクウス 場所

ロイ健康

ロイヤルリゾート 健康相談会

5月開催プログラム

内容:おくすりのこと、もっと知ってください。 ペガサス予防体操 大道芸

日時: 5月10日(水)午後1時30分~ 場所: ペガサスロイヤルリゾート



Vol.75

ペガサスから地域の皆さまへ

手術を見学することで、より良いリハビリテーションに繋げていく。

セラピストの手術室見学を 積極的に行っています。



馬場記念病院では現在、理学療法士や作業療法士など のセラピストが、実際に手術室に入り、手術の様子を見学す ることに積極的に取り組んでいます。

目的は、患者さまのことを今まで以上に知り、それをリハビリテーションに活かすため。たとえば、インプラント(金属製のプレートやネジなど)を使って骨折部を固定する整形外科の手術であれば、インプラントがどこにどのように入り、どの筋肉にあたる状態なのか。実際の手術で見ることで、こうした患者さまの状態をより深く理解。その後のリハビリテーションにおいて、患者さまに負担が少なく、効果的な関節の動かし方などに繋げていきます。

また、手術見学は、画像診断の理解を深めることにも役

立ちます。理学療法士や作業療法士にとって、CTやMRI、レントゲンなどの画像から病態や治癒過程を判断し、リハビリテーションのゴール設定や治療を展開することは必要不可欠。この手術見学は、そうした画像を、具体的な手術と結びつけて考えることで疾患の理解がより深まり、適確な画像診断が期待できるのです。

そして何より大きいのが、手術見学によって患者さまその人を知るということです。セラピストは、手術後、リハビリテーションができる状態になって初めて患者さまにお会いします。しかし患者さまは、そこに至るまで、初めての手術、長時間に亘る手術、命にかかわるような手術など、一人ひとり異なる手術を行い、さまざまな思いを持っています。手術は、患者さまの背景を知るということにおいて、非常に大きい要素の一つなのです。

手術を見学したセラピストからは、「患者さまが大変な経験をされていることを改めて認識した」「ドクターが必死になって救った患者さまを引き受けているのだと気持

編集協力/HIPコーポレーション

ちが引き締まった」などの声も。馬場記念病院では、こうした取り組みを通じて、セラピストが患者さま一人ひとりのこともっと知り、より良いリハビリテーションに繋げていきます。

当院の言語聴覚士が、堺市西区で講演をおこないました。

平成29年2月16日、堺市西区で定期的に開催されている、 医療職と介護職を対象にした交流会・勉強会において、当 院リハビリテーション部の中津有規言語聴覚士が講演を 行いました。

西文化会館で行われたこの会には、ケアマネージャーなど在宅分野で働く方々を中心に約70名が参加。講演では、中津言語聴覚士が「誤嚥に配慮した食事摂取のポイント」というテーマで、誤嚥とは何か、なぜ嚥下障害になるのか、そして、誤嚥しない具体的な食事介助の方法など、15分に

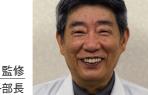
亘り、参加者に語りかけました。

また、当日は、講演以外にも少人数のグループワークがあり、会場では、和気あいあいとした雰囲気のなか、活発な意見交換が見られました。

「参加者の摂食嚥下に対する関心の高さが印象的で、法 人外の在宅分野で働く方々の生の声を聞く良い機会となり ました。今後は、言語聴覚士として、入院中から在宅まで、 幅広くサポートできるようになりたいと思っています」(中津 言語聴覚士)。

病気を知ろう慢性咳嗽(まんせいがいそう)

長引く咳に潜む 病気もあります。



呼吸器科部長 玉垣 芳則

慢性咳嗽とは。

咳嗽(がいそう)とは、症状を表す 医療用語の一つで、いわゆる<咳> のこと。大きく2種類があり、痰をとも なわない乾いた咳を<乾性咳嗽>、 痰をともなう湿った咳を<湿性咳嗽> といいます。

咳には、体の中に入ってきたホコリ やウイルスなどの異物を排出し、肺や 気管といった呼吸器を守る役目があり ます。しかし、長く続く場合には、下表 のような病気の疑いがあります。そし

◆慢性咳嗽の主な原因

- 肺がん。
- 肺結核・非結核性抗酸菌症
- 成人の百日咳
- 咳喘息
- 副鼻腔気管支症候群
- アトピー咳嗽
- COPD (慢性閉塞性肺疾患)
- 胃食道逆流症
- 感染後咳嗽
- 降圧剤による咳嗽

て、長引く咳のなかでも、3~8週間 続く咳を<遷延性咳嗽>、8週間以 上続く咳を<慢性咳嗽>と呼びます。

慢性咳嗽の原因と診断。

慢性咳嗽の原因で最も多いのが <咳喘息>です。咳喘息とは、気管 支喘息(喘息)になる一歩手前の状 態。 気道 (呼吸をするとき空気が通る 道)が狭くなり、いろいろな刺激に対 し過敏になることで、咳の発作が起 こります。患者の約3割が将来、気管 支喘息になるといわれています。

次いで多いのが、気管支炎と慢性 副鼻腔炎 (蓄膿症) が同時に起こる <副鼻腔気管支症候群>と、アレル ギーが深く関係している<アトピー咳 嗽>の2つ。その他にも、以前は肺気 腫、慢性気管支炎と呼ばれていた COPD (慢性閉塞性肺疾患) などが 原因として挙げられます。

診断は、胸部X線やCTなどの画像 検査、肺の機能を調べる肺機能検査、

アレルギーや感染症の有無を調べる 血液検査、痰を採取して調べる喀痰 検査などを症状に応じて実施、病名 を確定します。見逃してはいけないの が、肺がんや肺結核です。これは胸 部X線やCTで異常な陰影を認めま すので、比較的、診断が容易です。

咳喘息の治療方法。

咳喘息の治療は、基本的に気管支 喘息の治療と同じですが、根治の難 しい気管支喘息になる前に、なるべく 早く治療を始めることが重要です。

主な治療法は、強い抗炎症作用が ある吸入ステロイド薬の吸入です。但 し、なかには吸入方法が間違ってお り、症状が改善せず、発作を起こす ケースもあります。そこで当科では、 <正しい吸入方法>に力点をおき、 時間をかけて丁寧に指導しています。

また当科では、COPDの治療にも 注力しています。COPDは、長年の 喫煙により、気道や肺に炎症が生じ る病気。軽症のうちから治療を開始 し、進行を極力抑えるためにも、特 に<禁煙外来>に力を入れています。

ただの咳と思っていても、長引く咳 にはさまざまな病気が潜んでいます。 いつまでも咳が続くようであれば、お 気軽にご相談ください。

3学会合同呼吸療法認定士 エキスパート

シリーズ no.6

肺機能の改善や回復を 支えるスペシャリスト。

呼吸療法認定士とは。

呼吸療法認定士は、日本胸部外科 学会、日本呼吸器学会、日本麻酔科 学会の3学会によりつくられた認定 資格で、正式名称を<3学会合同呼 吸療法認定士>といいます。呼吸療 法の専門家として、吸入療法、酸素 療法、呼吸理学療法及び人工呼吸な どの的確な実施と、使用する機器の 管理を行います。資格は、臨床工学

技士、看護師、准看護師、理学療法 士、作業療法士の有資格者で、実務 経験と講習会などの要件を満たし、 試験に合格した者に授与されます。

現在ペガサスグループには、馬場記 念病院に、頃末 孝、渡邊美恵、松村 友明の3名、ペガサスリハビリテーショ ン病院に、中野俊明、平岩敏志、谷口 幸枝、北川圭苗の4名、合計7名の理 学療法士がこの資格を有しています。

円滑なチーム医療を推進。

「元々、内科に興味があり、呼吸器

科の知識を深めたいと思って、この資 格の取得をめざしました。取得後は、 医師や看護師の考え方が理解できる ようになり、チーム医療を、より円滑 に進めていけるようになったと思って います。今後は知識をさらに活かし、

また、日々学び続 けることを忘れず、 より良い医療を 患者さまにご提 供できるよう心が けていきます| (松村)。



松村 友明 理学療法十

馬場記念病院 勉強会•登録医集会

顔の見える関係を より深めるために。

TOPICS

平成29年2月4日、ペ ガサスは、第53回馬場記 念病院勉強会と第18回 登録医集会をホテル・ア ゴーラ リージェンシー堺 にて開催しました。30名 を超える登録医の皆さ



まにご参加いただいた勉強会では、当院副院長の北口正 孝が座長となり、4つの講演 (下記参照) を行いました。

続く登録医集会では、当院の現況と今後の取り組みや、 各診療科部長の紹介のほか、手術室、病棟などの看護師 長からも挨拶。登録医の皆さまとの顔の見える関係を、よ り深めていきました。

講演

「当院での内視鏡検査と内視鏡治療について」消化器科 南野弘明 「地域連携パスの運用実績報告」 リハビリテーション科 西尾俊嗣 「手術で治る認知症:慢性硬膜下血腫について」脳神経外科 伊飼美明 「当院における乳癌診療への新たな取り組み」 外科 寺岡 均

ペガサスグループ 日米ジョイントフォーラム

日米のリハビリテーションを 現場からの視点で考察。

大阪と東京で毎年開催される<日米ジョイントフォーラ ム>が、1月29日、大阪で開かれました。社会医療研究所 の岡田玲一郎所長が企画する本フォーラムでは、米国で活 躍する医療の専門家などから話を伺い、米国の最新の医 療事情を理解し、今後の日本の医療を考える上でのヒント を探ります。

大阪会場では、米国のオバマケアに関する講演とともに、 シンポジウム 『リハビリに日米差はあるのか?』 を開催。報 酬制度を交えながら、現場の視点からリハビリテーション

について考え ました。

シンポジウ ムには、米国 や日本の専門 家のほか、当 院から事務部



長の田中恭子 (理学療法士) も参加。現場で望ましいリハ ビリテーションについての講演などを行いました。参加者 からは、「早期リハビリテーションの重要性がわかった」と いう声も出るなど、非常に意義深いものとなりました。

ペガサスグループ 接遇研修会

地域とともに職員の 接遇向上に努めています。



ペガサスでは、患者サービスの一貫と して、職員向けにさまざまな研修を行っ ています。そうした研修の一つで、グ ループ職員だけでなく、地域の診療所 の職員の方にも広く参加を呼びかけて

講師 野口明美氏 いるものに<接遇研修会>があります。

この接遇研修会が、平成29年1月26日、馬場記念病院 にて開催されました。今回は、株式会社営業会議より代 表取締役の野口明美氏を講師にお招きし、『場面に応じ た、敬語の使い方徹底トレーニング』という内容の研修 を実施。当日は、グループ職員や地域の医療従事者など 82名が参加しました。

研修では、野口講師が、尊敬語や謙譲語などの使い 分けから、適切な対人距離を学ぶパーソナルスペースな どを講義。その後、受付の待合室という設定で、現場の 実例に即したロールプレイングを行い、患者さまやご家 族に対する適切な対応、言葉づかいを学びました。

ペガサスグループ ペガサスケア発表会(本選)

ペガサスリハビリテーション病院 3階チームが2連覇を達成。

昨年12月に予選を行った第2回<ペガサスケア発表会> の本選が、1月23日に開催されました。本選には予選を通 過した7チームが出場し、ペガサスリハビリテーション病 院3階チームが、昨年に引き続き優勝を飾りました。

その発表内容は、病棟の患者さま50人全員が1日1回 トイレで排泄するよう声かけを行い、ADL (日常生活動 作) とQOL (生活の質) の向上に取り組むというもので、 審査員から高評価を獲得しました。

ペガサスでは、この会を通して、ケアの質の向上と、各 部署の連携強化を図っていきます。

優勝	トイレへGO!	ペガサスリハビリテーション病院3階
準優勝	家事動作の獲得	ペガサス通所リハビリテーション和泉
3位	やる気+運動=体力や筋力の 維持・向上	ペガサスデイサービスセンター石津2号館
4位	起立・着席運動を実施して QOLが向上した一事例	特別養護老人ホームアリオン
5位	自発的リハビリ訓練	ペガサスデイサービスセンター石津2号館
6位	スキンケア強化による褥瘡予防	介護療養型老人保健施設エクウス
7位	急性期病棟でのトランスファー 私たちが気をつけていること	馬場記念病院 北館病棟

O2 | Pegasus News PEGASUS NEWS | 03